

学びを大学生の手にもどすための教育理論

■講師



富田 英司

(愛媛大学 教育学部 准教授)

香川大学教育学部卒、九州大学大学院人間環境学研究院単位取得退学(博士(心理学))、九州大学大学院人間環境学研究院の助手・助教を経て、平成20年より愛媛大学に着任。

■プログラム概要

学ぶのは学習者です。しかし、教育はその学びの内容や方法に対して、意図的あるいは非意図的に介入し、その社会の発展に貢献するよう方向づけるものです。そこで教師は教育の中心を教師に位置づけてしまうこともあります。しかし、馬を水辺に連れていけても水を飲ませることはできないと言われるように、それでも学ぶのは学習者です。この矛盾を孕んだ活動について学習者や教育を概念化し、矛盾を超えたところの学びを実現させることが専門職としての教師に求められていることです。

本プログラムでは、デューイ、ロジャース、ピアジェ、ヴィゴツキー、ブルナー、自己決定理論、活動理論といった学習者中心の教育の系譜を形づくった主要な研究者や理論について学びます。このことに加えて、受講者が自分自身の教授学習理論を構築する機会を提供します。これらを踏まえて、実際に受講者が担当する授業をより学習者中心のものにするための実践的な計画を作成します。これらを通して大学の教師が1人でも多く、実践と理論を結びつけた知の再生産と創造の過程としての教育活動に参加できることをねらいます。

受講なさる方はご自身の担当する授業における課題や授業作りの信条などを改めて整理なさった上で当日に望んでいただけるとより効果的な学びが期待できます。また、ノート PC 等をお持ちの方は授業に持ってきていただくと便利かと思います。無くても受講はできます。

■主な受講対象

主に教育心理学領域の教授学習理論に関心をお持ちで、理論的背景を踏まえた授業実践に取り組んでおられる、あるいは取り組むことに関心をお持ちの方。

■本プログラムの到達目標

1. 学習者中心の教育を主張する1つ以上の理論について、その概要を説明することができる
2. 過去の主要理論との関連性を明らかにしつつ、学習者自身が独自の「学習者中心の教育」概念を定義することができる
3. 学習者中心の授業案を理論的背景と関連づけて構想することができる

■日時・会場・受講定員

日 時 : 平成25年8月22日(木)13:00~15:00

会 場 : 愛媛大学 城北キャンパス 共通教育講義棟 2階 23番教室

定 員 : 35名